

第2回改定検討委員会 主なご意見

主な意見	対応(案)				
<p>将来の目標人口・人口構成に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少社会でも墨田区は増やしたいという考え方で良いか ・人口減少を仕方ないとするのと、人口増加を目指すのでは立場が変わってくる。どちらが正しいかではなく、どちらを選択するか ・幅広い世代を誘導しようとするとう違う課題が出てくるかもしれない ・南部で両親を呼ぶ、子どもが所帯をもって分かれるなど住まいの循環も考えられるとよい ・高齢化とストックの活用が持続可能な地域社会にもつながる ・増やしたいのが誰なのか、ターゲットをはっきりさせてマスタープランを考えた方がよい。所得、外国人など特性の精査も 	<ul style="list-style-type: none"> ・改定都市マス(目標年次2040年)では、人口ビジョンの目標人口()達成に向けた視点で作業を進める ・次回の都市マス改定時(概ね10年後の2030年)に、人口動向を踏まえて再検討する <p>()</p> <table border="0"> <tr> <td>2025年</td> <td>275,000人</td> </tr> <tr> <td>2060年</td> <td>300,000人</td> </tr> </table> <p>(参考)</p> <p>○2018年1月1日現在の人口 268,898人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯の定住を促進していくために、「安全・安心」、「定住(住まい)」の方針の充実を図っていく 	2025年	275,000人	2060年	300,000人
2025年	275,000人				
2060年	300,000人				
<p>住工共存について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住工共存地区における整備・育成すべき機能は「工場、工場併用住宅及び住宅」でよいのか ・音や光の問題に調和できる都市型ものづくりの現場になってきており、都市型ものづくりが集中するエリアになる可能性を秘めている ・ものづくりの現場がみえる町で生き生きと暮らしたいという価値観を持つファミリーが住む可能性もあり、多様化が重要 ・ものづくりと住まいが混在するまちは全体で調和できる。ものづくりを継ぐ人の地域活動やネットワーク、ものづくりで入ってきた人のお祭り参加などにも焦点を当ててはどうか ・前向きに地域の活動も含めて後継者の育成も含めて、産業との共存を書いていくのは良い ・工場の立地により、緑化が推進される側面もある。(工場から土地利用転換すると緑地が減ることもある)住宅と産業との関わり方を考えた方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所数が減少しているものの、住工が混在しているのがすみだのまちなみの特徴であり、維持していくためには、育成していくべき機能と考えている ・新たな事業者参入の妨げにならないよう現行の土地利用方針を継続する 				

<p>ものづくりの特性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業面で大事にすべきことを強調してはいかがか。新しい課題のひとつに産業、ものづくりに関する視点が書けるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり」や「ものづくりを支えている人々」はすみだの魅力の要素の一つであり、都市像「個性がきらりと光るまち」として掲げる ・「ものづくりと観光」、「ものづくりと地域の活性化」など、「ものづくり」との連携に関する方針を掲げる ・将来の都市像、分野別（景観・産業観光）方針にもものづくりに関する方針を掲げる <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業風景や商品などが外から見れるなど、ものづくりのまちのイメージが浸透するような環境づくりを推進する ○「すみだ地域ブランド戦略」や「3M運動」など、すみだのものづくりのイメージアップにつながるようなまちづくりを推進する
<p>商店街の扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街は現実的には厳しいが、地域に住んでいる人にとって重要な場所になれば、残すべき商店街を重点的にという考え方もある ・区民アンケート結果で商店街エリア別に地元で買っていることがわかるが、ミニスーパーの出店があり、おそらく個店での買い物ではないと理解した方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街が担ってきた地域における役割（みまもり機能など）の継承、観光資源として魅力ある商店街づくりの支援、個店の支援についての方針を掲げる <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある個店の密度が高いまちをめざす ○集客力のある個店が核となって地域商業の活性化につなげる
<p>地域特性（北部・南部）の違いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北の違いをどう考えていくか。取り扱い方、重点の置き方など ・北と南の性格付けをはっきりして考えた方がよい ・集合住宅条例でファミリー向けを北部と南部で変えるだけで10年経てば変わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の方針において、都市基盤や地域特性の違いによる課題や方向性を示す <p>(例)</p> <p>南部 住工共存地区（基盤整備済地区） 北部 住工共存地区（基盤整備促進地区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅条例で地域別のルールを策定することはしない。多様な住宅の供給促進に寄与する方針を盛り込む <p>(例)</p> <p>すみだ良質な集合住宅認定制度</p>

<p>地域の教育環境や拠点となる施設の把握と検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定的かつクオリティの高い定住人口増には、教育をしやすい環境を作っていくことが大きい。教育の扱いが薄いのが気になる ・身近な商店街と公共交通があるなかで、小学校や公立保育園など子育て世代の生活環境、地域の拠点となる施設の近年の状況など見ていけば子育て世代が住み続けるかどうかにつながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・分野別（定住（住まい））において方針を掲げる （例） ○身近なものづくりの活動が子供にとって社会勉強につながる ・地域別構想にて既存施設の現況把握と地域特性について調査し、子育て世代の定住に関連がないか検討する 														
<p>定住促進と住宅の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションの増加や細分化された戸建ての増加に対し、どのように今後誘導していくか ・落ち着いた街にするという価値観の話にもつながる ・住み続けられない、子どもが生まれて出ていくという原因には、家族が住めるだけのマンションが少ないことがある。大規模敷地でもワンルームにしているのかデータで検討を 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性に応じた住宅ストックの活用等により、子育て世帯の定住促進や住まいの循環を促進する方針を掲げる ・今後も、集合住宅条例に基づく事業者への誘導や優良な住宅の認定制度等により、ファミリー向けも含めた多様な住宅ストックが形成されていくよう推進する方針を掲げる ・1000㎡以上の敷地ではワンルームに偏った傾向などは見られなかった 														
<p>現状分析に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単身世帯はもっと広い世代なのではないか。世帯の構造に住宅のマーケットは対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各世代に幅広く存在するが、その中でも、20代、30代、70代以上の割合が多い （単身世帯の年齢別割合） <table border="0"> <tr> <td>～19歳</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>20～29歳</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>30～39歳</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>40～49歳</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>50～59歳</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>60～69歳</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>70歳～</td> <td>18%</td> </tr> </table>	～19歳	1%	20～29歳	20%	30～39歳	21%	40～49歳	16%	50～59歳	12%	60～69歳	13%	70歳～	18%
～19歳	1%														
20～29歳	20%														
30～39歳	21%														
40～49歳	16%														
50～59歳	12%														
60～69歳	13%														
70歳～	18%														
<p>継続する課題と解決した課題の整理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題として取り組んできたことの評価をし、継続すべき課題と解決した課題の整理をしていただけるとありがたい ・現行マスタープランと改定マスタープランの違いをわかりやすくしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題について、各種計画の進捗状況を踏まえた評価を行い、継続する課題、解決した課題、新たな課題を整理する ・改定案は現行プランと容易に比較できるよう資料を工夫する 														

その他

- ・外国人労働力が規制緩和されたら多くの外国人が入ってくる。多文化共生をどう考えるのか
- ・区民のまちづくりに対する意識改革が必要

- ・多様な価値観を受け入れる意識の醸成につながるまちづくりをめざす
- ・区民を対象に開催するワークショップ等を通じて、まちづくりに関する区民の意識を高めていきたい